

まほろば秦野通信

令和5年1月4日

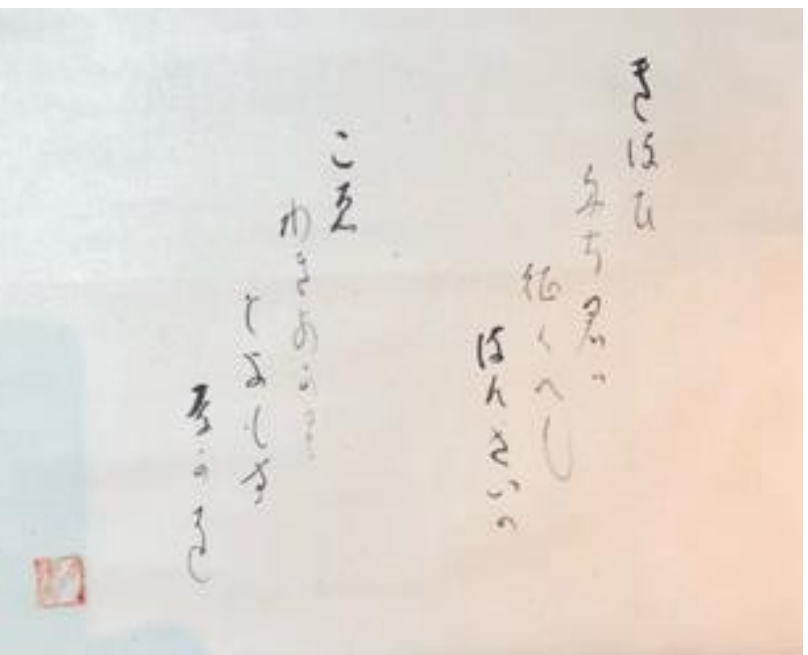
タイトル	図書館の前田夕暮記念室 新収蔵資料の展示が始まります
When (いつ)	1月15日(日曜日)から3月31日(金曜日)まで
Where (どこで)	秦野市立図書館 2階 <small>まえだゆうぐれ</small> 前田夕暮記念室 (所在地: 秦野市平沢94-1)
What (なにを)	新収蔵資料である前田夕暮直筆の掛軸 2点(歌と書簡)
How (どのように)	夕暮の弟子であった伊能秀記 <small>いのうひでき</small> 氏の息子、伊能高明 <small>いのうたかあき</small> 氏から令和4年2月に寄贈された掛軸2点を、前田夕暮記念室大型展示ケース内に展示して紹介します。(入室無料)
Why (なぜ)	前田夕暮記念室では、常設展示として郷土の生んだ歌人・前田夕暮の直筆の掛軸や色紙に加え、写真や貴重な関係書籍、雑誌等を展示し、生涯を紹介しています。今回は、新たに寄贈のあった掛軸2点を初めてお披露目します。 また、今年は前田夕暮が生誕140年を迎えることから、夕暮を広く知っていただくために、1月15日から12月末まで、図書館1階大型本棚の前に関連書籍を集めて紹介するコーナーを設けます。
過去の実績	生誕120年、130年においても特別展示を実施しました。
今後の取り組み	今年は、前田夕暮生誕140年にあたるため、講演会や展示など、さまざまな記念事業を計画しています。
ホームページURL	https://library-hadano.jp/news
問い合わせ	図書館 担当: 丸橋 電話: 0463(81)7012

秦野市立図書館前田夕暮記念室 新収蔵資料紹介



令和4年2月に、前田夕暮記念室に寄贈された資料二点を御紹介します。

○資料1 掛軸（短歌の書かれた色紙を軸装したもの）



【読み】

きほい
たち君は
征くべし
ばんざいの

こゑ
わきあがり
どよもす
なかを

夕暮

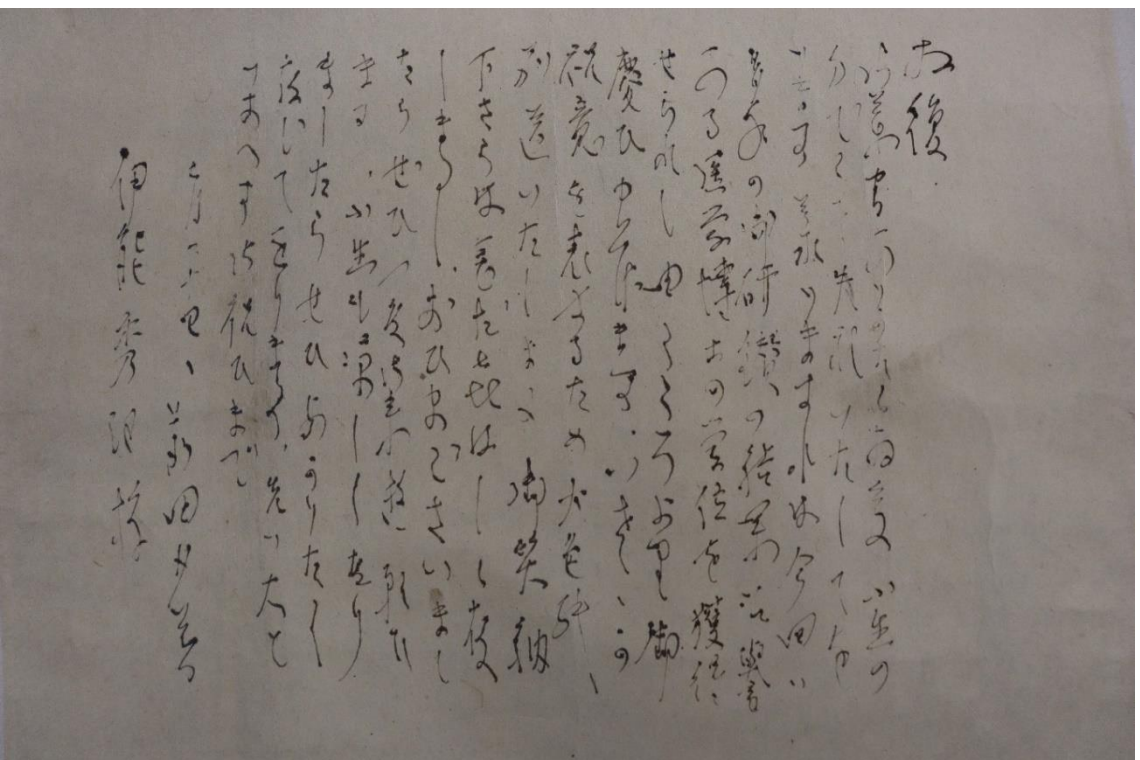
【資料の概要】

寄贈者の伊能高明氏によれば、高明氏の父、伊能秀記が戦争に赴く際に、前田夕暮から贈られた短歌であり、軸装して自宅にかけてあったということである。

この歌は、1942（昭和十七）年、夕暮五十九歳頃の作。『前田夕暮全集 第二巻 歌集Ⅱ』266ページに、歌集『富士を歌ふ』に掲載されたものとして「伊能秀記出動」の詞書とともに記載がある。

伊能秀記は、大正五年生まれで、夕暮より三十三歳年若の歌人なので、この歌を贈られた時の年齢は二十六歳ほどである。前田夕暮の創刊した短歌雑誌『詩歌』の同人で、戦後、夕暮の息子の前田透、前田夕暮記念室立ち上げに尽力した歌人の香川進とともに、『詩歌』の復刊に際し実務委員を担当した。

○資料2 掛軸(書簡を軸装したもの)



【読み】

拝復

御葉書ありがた□ゐます 小生の
ふでにて失礼いたしてを
ります 承りますれば今回は
貴殿の御研鑽の結果名譽
ある医学博士の学位を獲得
せられし由こころより御
慶び申し上げます。いささか
祝意を表するため大色紙
別送いたします 御笑納
下さらば甚だ喜ばしく存
じます おひまごさいまし
たらぜひ一度御来遊頼み
ます。小生も涼しくなり
ましたらぜひあがりたく
存じてをります。先ずはと
りあへず御祝ひまで

七月二十四日 前田夕暮

伊能秀記様

【資料の概要】

手紙の内容は、夕暮が伊能秀記にあてた医学博士の学位取得祝いである。秀記から送られた葉書に対しての返信とみられ、「祝意を表するため大色紙別送いたします」とあり、その色紙が資料1であると考えられる。

夕暮の手紙を丁寧な軸装していたところから、伊能秀記が、自身に贈られた歌の色紙とともに、この手紙をととても大切にしていたことがうかがえる。